



六浦南小

# 学校だより

本校学校教育目標：健康で笑顔がすてきな子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsuuraaminami/> TEL785-3244 Fax783-6984

第357号

令和5年1月10日

横浜市立六浦南小学校

## 子どもの力を引き出すために

校長 柏原 奈保



2023年、新しい年のスタートです。

今年の干支は、うさぎ。卯年は、うさぎのぴょんぴょんと跳ぶ様子から、いきいきと活動する年、大きく飛躍する年、良い方向へ向上する年などと、いろいろとされています。今年一年が、子どもたちにとって、そして、保護者の方々や学校に関わる皆様にとって、いきいきと、そして「飛躍」「向上」できる良い一年になることを願うばかりです。

さて、子どもたちの力を引き出して、いきいきと活動し、「飛躍」「向上」できるようにするには、私たち周りの大人はどう接していけばよいのでしょうか。

以前に見たドラマに出てきた「大きな耳 小さな口 優しい目」という言葉がヒントになるかもしれないと思うので紹介します。NHKの土曜ドラマ「フルスイング」の中に出てきた言葉です。このドラマは、落合、イチロー、小久保、田口など、多くのタイトルホルダーを育てた元プロ野球打撃コーチの高島導宏（たかばたけ みちひろ）さんをモデルにしたドラマです。高島さんは、59歳で高校教師になり甲子園を目指し奮闘します。その中で打撃コーチ時代に書いたノートに書き留めたこの言葉「大きな耳 小さな口 優しい目」を目にし、生徒たちとの向き合い方を考えます。高島さんは、その後、わずか1年で病に倒れ、志半ばにしてこの世を去りましたが、この生徒との真のつながりは、生徒のみならず、教師など周りの人に大きな影響を与えたそうです。

「大きな耳 小さな口 優しい目」、私は、子どもたちにこのような姿勢で接することができるのだろうかと考えます。「大きな耳」をもって子どもたちの話を聞いているだろうか、いいことも悪いこともまず聞いて受け止めることができるだろうか。ガミガミ指導したり、「ああしろ！」「こうしろ！」と出しゃばったり、口先だけで子どもたちを動かそうとしたりして「大きな口」になっていないだろうか。「優しい目」で、子どもたちがすることを受け止め、子どもたちを信じ、子どもたちを温かく見守ることができるだろうか。

この「大きな耳 小さな口 優しい目」という言葉は、もとは家庭教育の第一人者の山崎房一（やまざき ふさいち）さんが広めた言葉です。子どもの本来もっている力を引き出すために、周りの人がどう接していけばよいのかを考えるヒントになる言葉だと思います。人は成長とともに体が大きく変化します。でも、人としての成長は、それだけでなく、心の成長が大切なのではないのでしょうか。日々の人間関係の中で心は育まれます。教師として、人間として生きる先輩として、子どもに関わる人として、「人」を育てるために大切にしたい言葉です。